

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	株式会社リボーン	代表者	飛田 尚文	法人・事業所の特徴	当社は総合福祉サービスを展開しており、様々な事業展開を行っています。当事業所は「ファミリアいしづかの理念」に基づき、馴染みの地域でいつまでも安心・安全に過ごせるように、家族や地域の人々と共に支援できる関係作りを特徴とする事業所です。
事業所名	ファミリアいしづか	管理者	藤井 由紀		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	2人	人	人	1人	人	5人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・運営推進会議時に、今回の改善計画を取り組む為の相談をさせて頂き、助言を頂く。	・運営推進会議時に、相談・助言を頂くことが出来た。	・「以前の暮らし」で、利用者の生活歴など、すべてを把握するのは難しいが、関わっていく中で掘り下げて欲しい。 ・運営推進会議の内容は職員に伝わっているか回覧し共有をしている。	・事業所自己評価の改善計画を貼り出し、職員がいつでも意識出来る様にする。
B. 事業所のしつらえ・環境	・施設周りの草刈を来年度の計画に入れる。	・施設周りの草刈を年の計画に入れ、年4回の草刈を実行した。	・施設前の道路、スピードを出した車両が通るようだ。「高齢者施設があるので、安全に運転しましょう」などの表示をしてはどうか。	・「高齢者施設があるので、安全に運転しましょう」と、看板の設置の検討を行う。
C. 事業所と地域のかかわり	・地域ボランティアをお願いするなど、地域との関わりを充実できる様、検討する。 ・出前講座の企画・実行。	・地域ボランティアをお願いし、地域の方と利用者、職員が交流を行う事が出来た。 ・出前講座の企画・実行は出来なかった。	・地域住民から何かして欲しいと要望はないのか。 ・小規模多機能は、浸透してきていると思う。	・「いきいきルームいしづか」を継続し、地域の方がいつでも相談に来れる場所作りを進める。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・事業所がある地域だけでなく、利用者が住んでいる地域にも出向き、地域の方々と交流する。	・事前に、利用者家族と面談を行い、利用者が住んでいる地域の行事にお連れしてよいか確認した。拒否や、反対があり、行事参加が出来なかった。	・すべての家族がそうなのか。	・利用者が在宅地域のスーパーなどに一緒に出向き、顔なじみの方と交流する。 ・事業所だけで問題を解決しようとせず、民生委員・町内会長など、地域の方に相談する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	・ヒヤリハットの様式の見直しを行い、色んな方向から検討を行える様にする。	・ヒヤリハットの様式を5W1Hで分かりやすくした。 検討がしやすくなり、事故に繋がる注意喚起がしやすくなった。	・運営推進会議議事録は市で公開はしていないのか。→特別、公開はしていない。議事録は利用者家族に送り、読んで頂いている。	・運営推進会議で、利用者だけでなく、地域の心配の方等の事例検討を行う。
F. 事業所の防災・災害対策	・水害避難場所の、いしづか住宅を確認する。 玄関に防災計画が閲覧出来るように置く。	・施設長と共に、マシンの点検確認を行った。 通路も狭く、避難場所としては現実的では無いことが分かった。 ・玄関に防災計画を置き閲覧出来るようにした。	・水害は護岸工事等行い、危険が減ったと思われる。栗原地域・上越地域が未だ危険がある。	・年に2回の防災訓練の想定を変え、いろいろな状況での訓練を行う。